

様式 3

平成 2 4 年 度 第 2 回 学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

鳥取県立倉吉東高等学校

学校長 牧 尚志

評 価 日		平成 2 4 年 1 1 月 1 日 (木)			
委 員	氏 名	年 齢	性 別	資 格 ・ 所 属 等	委 員 長
	石 田 正 紀	5 9	男	倉吉市立東中学校長 (中教)	○
	青 山 真 知 子	3 6	女	倉吉市立河北中学校 P T A 役員 (地域代表)	
	武 本 智 美	4 8	女	倉吉東高保護者 (保護者代表)	
	小 谷 次 雄	7 2	男	学校評議員	
	寺 坂 和 利	5 2	男	学校評議員	
	名 越 宗 弘	5 0	男	学校評議員	
評 価 ・ 提 言				学校の所見・改善策等	
・ 判定会議の参加率が低いとの評価であるが、理由はあるか。また、参加を奨励することが逆に教員の負担感につながるのではないか。 ・ 中学校の立場から言えば、驚きである。先見性のある取組だと思う。 ・ 平均点偏差値の推移だけを指標にしているように感じるが、上位層や下位層の変化をみることも大切ではないか。 ・ 高校体験の際に、チューターによる校舎案内をしたそうだが、新たにチューターを選んだのか。また、チューターを生かすなら、中学生に対してもっと話をさせる機会を作ってはどうか。				・ 校内研修の場 (O J T の機会) として、1 0 0 % の参加率を目標としているが、従来は関係学年団と分掌 (旧進路部) 担当者だけでやっていたことを考えると大変な進歩であるとも言える。 ・ 各層の数値も常にフォローしている。また、本校としての各偏差値帯の適正人数も設定しており、それをもとに毎模試後に検討会を持っている。 3 年になると、5 科受験になること、過卒生や上位校が受験者として参入することなどにより、相対的に数値は下がる。 1 年は超上位層の育成が課題であると同時に、3 教科揃っている生徒が少ないという印象である。 ・ 既存のチューターの中から、出身中学を考慮して指名した。もう少し話をさせることを検討したい。	

・中学生英語特別講座について、高校に入ってその効果があるのか。中学生の声はどうか。呼びかけによって参加者を増やしたが、塾と重なる、難しいとしり込みする生徒がいるようだ。上昇志向、チャレンジ志向の欠如を感じている。もっと宣伝するために受講者の肯定的意見を出してほしい。

・「中学生英語特別講座」という名称で募集をかけているのか。ネーミングに問題があるのではないか。中学生の立場を考えるべきだ。

・文理学術のクラスがあるが、どのように編成しているのか。

・この講座に参加した生徒のアンケート結果は毎年各中学校へ送っている。参加生徒の声はほとんど肯定的なものばかりである。それにもかかわらず、こちらからの働きかけがなければ一定数の受講者が確保できない点が悩ましい。この講座のメリットを理解していただき、必要だと思われる生徒に積極的に受講を働きかけていただきたい。

・本校の授業を体験した生徒に、さらに高みを目指すために準備する講座であり、高校受験用の講座ではないことはあらかじめ伝えている。実際に、これまでの高校入試で有意な差は見られず、11月進研模試では、受講生徒とそうでない生徒との間には有意な差が表れる。ただ、今年度入試に限っては、スクラム教育を受けた東中生徒が入試点（英語）で＋2点、その内英語講座の受講者は＋4点、平均点を上回った。

・そういう視点はなかった。検討したい。

・希望と成績で決定している。成績上位者で編成したいので、電話により勧誘することも多い。実際のところ、定員確保にはかなり苦労している。

・学びは文化であるが、学ぶことが「悪」という風潮がある。その姿勢を大人が変えなければならないと思う。
・今の「学び」が未来へどのようなつながっているのか見えないのでエネルギーを使いたがらないように思う。

